

第2回みやぎ連携復興センター検討会議事録

日 時：2015年4月17日（金）18:30～20:30

会 場：仙台市戦災復興記念館 4F第4会議室

出席者：一般社団法人パーソナルサポートセンター 立岡学 様

宮城大学 鈴木孝男 様

一般社団法人みらいサポート石巻 中川政治 様

特定非営利活動法人都市デザインワークス 榊原進 様

東北工業大学 ライフデザイン学科 安全安心生活デザイン学科 福留邦洋 様

東日本大震災支援全国ネットワーク 三浦圭一 様

公益財団法人地域創造基金さなぶり 川村文 様

特定非営利活動法人いわて連携復興センター 鹿野順一 様

一般社団法人ふくしま連携復興センター 山崎庸貴 様

一般社団法人ふらっとーほく 阿部結悟 様

公益社団法人中越防災安全推進機構 稲垣文彦 様

東北大学 災害科学国際研究所 井内加奈子 様

石巻専修大学 経営学部 山崎泰央 様

尚絅学院大学大学院 経営管理部総務課 吉田祐也 様

公益社団法人 地域創造基金 さなぶり 川村文 様

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター理事：大滝、紅邑、針生、渡辺

みやぎ連携復興センター 千葉、石塚、中沢、新沼、宮野、高木、堀内、小西、高橋(若)、高橋(智)、佐藤

進 行：中沢

ファシリテーター：渡辺

板 書：宮野、堀内

記 録：新沼

■挨拶

前回、みやぎ連携復興センターの設立経緯と現状をご説明させていただき、参加者の方からご意見を頂くという形でスタートさせていただきました。

後半の議論の中で「事務局をせんだい・みやぎ NPO センターに置いている今の形を、叩き台のない中で話をするのは見えずらい」というご意見があったことから、今回の第2回の検討会については「ある程度の方角性をもった提案」をさせていただこうと考えています。ただしこれはあくまでも一つのたたき台です。本日はより多くのご意見をいただければと思います。（せんだい・みやぎ代表理事①）

■前回議事の振り返り（れんぷく事務局員①）

※前回議事録参照

■〇2015年度事業の説明（れんぷく事務局員②）

※実施事業一覧参照

■「独立法人化」への過程

○ロードマップの説明

※ 「せ・み」ロードマップ法人化タスク(案)参照

こちらの資料はあくまでも過程を元にしたものです。

7月1日に法人化できるのであれば、このステップを

踏むという流れです。

この間にせんだい・みやぎ NPO センター事務局とステークホルダーがコミュニケーションをとりながら、人事や給与、予算、契約などの詳細をこれから決めていく予定となっております。(れんぶく事務局員①)

○組織/体制図についての説明

※平成 27 年 4 月以降の組織体制図参照

4 月より 3 つの事業部と総務部という構成で動いております。皆様にご議論いただきたいのは、体制図で言うところの理事会やアドバイザリーボードのところを一緒に検討いただければと思っています。(れんぶく事務局員①)

○目的についての説明

法人化する意味を説明します。

みやぎ連携復興センターのミッションビジョンである「組織の目的は被災地で活動している担い手をつなぐ」「地域の情報発信をする」「みやぎのこれからをお手伝いする」という方針はわかりませんが、その役割をはたしたかという点では十分ではありませんでした。

集中復興期間の 5 年目迎えるにあたり、被災地支援活動を収束する団体も多いと伺っています。一方で被災地の課題はまだ山積みであり、まだまだ宮城県内にいて様々な支援が必要という事も認識しております。関わってくる人や復興の取り組みも多様化する中、みやぎ連携復興センターの活動はすでに広域多岐にわたっており、多くの支援団体や企業、大学などの方々と「復興というテーマで一緒に動きやすくするという意味」で法人化というプロセスをとりたいと考えています。(せんだい・みやぎ代表理事②)

■フリーディスカッション 司会(せんだい・みやぎ理事②)

今回からの人もいるので、全員の方から自己紹介をお願いします。(せんだい・みやぎ理事②)

○自己紹介とコメント

都市デザインワークスの榊原です。仙台を中心に市民主体の街づくりを支援しております。

東北大の井内といいます。中越の震災のあと、5 年くらい稲垣さんや石塚さんにお世話になっていました。専門は都市計画、復興に役立てればと思いますので宜しくお願いします。

さなぶりの川村です。東北 6 県、中小企業を対象とした資金提供しています。

ふくしま連携復興センターの山崎です。みやぎ連携復興センターさんより数ヶ月遅れて 7 月より活動開始、2011 年の 12 月に一般社団法人格をとって活動しています。

石巻専修大学の山崎です。

学生と仮設の支援事業をしていました。今年度は関西とつながりをもちながら、震災の風化をふせぐ活動をしています。みやぎ連携復興センターが法人ではないことを今日初めて知りました。

JCN の三浦です。本来であれば池座がくるところですが、今日は宮城担当ということできました。じっくりお話を聞ければと思います。

パーソナルサポートセンターの立岡です。今日はみやぎ連携復興センターが独立したほうが良いのか悪いのか、独立するならするで、せんだい・みやぎ NPO センターから離れるわけだから「せんだい・みやぎ NPO センターの人がほとんど入らない形でお金だけ付けて」独立してくれればと思っています。

せんだい・みやぎ NPO センター理事の針生といいます。印刷会社を経営しています(せんだい・みやぎ理事①)

渡辺です。ワカツクという人材育成系の仕事をしています（せんだい・みやぎ理事②）

東北工業大の福留です。学校との連携の話がありましたが、現在は組織としては後押しできない状況です。個人で志のある学生がそういうところとつながっていけばと思います。

ふらっと一ほくの阿部といいます。山元町・亘理町・新地町でまちづくりの活動をしています。今後は企業中心に人材育成事業をしたいと思っています。

いわて連携復興センターの鹿野です。宮城さんが「れんぷく」と略されているので、岩手は意地でも「れんぷく」という略し方をしておりません。今日はよろしくお願いします。

中越防災安全推進機構の稲垣です。震災アーカイブスメモリアルアーカイブ長と柏崎市協働まちづくり専門官の二足のわらじ履いて活動しております。

○法人化についての意見交換

冒頭に「なぜ法人化するか」と「ロードマップ」をお示しいただいています。今日の場合は「どういったことを担うと復興が早まるのか」「みやぎ連携復興センターという機能がなにを果たせばいいのか」はもちろん「そもそも独立が必要か」などの議論も必要だと思っています。まずは、一方的にご説明があったので、そちらについて質問があれば受け付けたいと思います。（せんだい・みやぎ理事②）

事業計画を見るとかなりの委託事業があります。これ全部やると年間予算どの程度の金額になるのでしょうか？

まだ調整中の事業の見込みも含めれば、約八千万円程度の規模になります。この根拠は、会計年度はせんだ

い・みやぎ NPO センター年度(6月)とは異なりますが4月からとなっています。（れんぷく事務局員②）

その八千万円というのは、今はせんだい・みやぎ NPO センターの会計上で処理されているということですよ。それを独立させるといった場合こういった処理をされる予定ですか。

ここに挙げさせてもらったすべての事業は、せんだい・みやぎ NPO センターとしての委託契約です。せんだい・みやぎ NPO センターとしては他にも仙台市市民活動センターの事業などありますが、そこに含まれての処理となっています。法人化予定の7月を一つの区切りとすれば、そこから契約を移行していく予定です。委託元に対してもそのあたりは概ね了承をいただいています。ただすべての契約が随意契約というわけではないので、復興庁事業などはまだ見えないものもあります。（せんだい・みやぎ代表理事②）

11 人のスタッフに対して、まだとれるかどうかかわからない事業があった場合、独立して雇用を守っていけるのですか？事業を取れなかった場合も、せんだい・みやぎ NPO センターにいればその予算から人件費を出そうとかも考えられると思うのですが。

今のお話を補足させていただくと、独立を「する」「しない」というお話や、そもそもみやぎ連携復興センターの担う役割はどんなものかという意見もあって、3月から3回に分けてこういう場所を作っておりました。事務局としてはせんだい・みやぎ NPO センターとみやぎ連携復興センターの「ミッション」や「立ち位置」をわけたいという希望があってお話をしております。他にお聞きしたいことや、ロードマップを見た上でご意見等ある方はいらっしゃいますか？（せんだい・みやぎ理事②）

組織の中の人間ではないので、お金のやりとりの口だ

すつもりはありません。ただ外の人間から言わせると独立という言葉に違和感を感じます。なぜ別の法人になるかという根っこ話を聞いた時「せんだい・みやぎ NPO センターは復興が専門じゃない」「みやぎ連携復興センターは復興が専門」「やることは重なるけれど、一つの団体の中にあるのはおかしいよね」という話があったと聞いています。せんだい・みやぎ NPO センターの中でそういう話がちゃんと行われていたのでしょうか？

みやぎ連携復興センターの業務はせんだい・みやぎ NPO センターの一部門ではできないという話をきいています。地域のまちづくりはせんだい・みやぎ NPO センターでもやっているのライバル関係にもなりえますよね？

みやぎ連携復興センターが単独の法人になる時、経営にせんだい・みやぎが影響力を持つのでしょうか？別々の法人になるという方法もあると思うのですが

せんだい・みやぎ NPO センターについては「市民活動団体の活動支援」するのがミッション。一方で復興にかかわるところで、現場と外とでうまく資源をつなぐために「よりどころになる場」をつくりたいという思いで立ち上げたのが「復興準備室(後のみやぎ連携復興センター)」それがせんだい・みやぎ NPO センターの一部門という認識はありませんでした。

団体同士をつなげるというミッションは、せんだい・みやぎ NPO センターの培った施設管理における市民活動支援のノウハウも生きてきますし、さなぶりと連携も考えています（せんだい・みやぎ代表理事②）

今いただいた説明では、せんだい・みやぎ NPO センターは施設管理に特化した運営、復興関係はみやぎ連携復興センター、そうした場合せんだい・みやぎ NPO センターが担ってきたものをみやぎ連携復興センターが奪ってしまわないかという懸念は少しわかりづ

らかったと思います。（せんだい・みやぎ理事②）

その議論が理事会でどう話われていたのでしょうか？

お互いに食い合うというよりは、相乗効果を生んでいきましょうと。その手前対象者や手法もかわってくるのでガバナンスを分けたいというお話はしています。またボードアドバイザーをどうするかという話はせんだい・みやぎ NPO センターの理事会で話し合えていません。個人的には「スピード感を出すためにわけたほうがいいのか、それでいいんじゃないか」とも思います（せんだい・みやぎ理事②）

逆に「法人化をしないと困る」理由はないのでしょうか？それがあると説得力があると思うのですが。

「勤務形態が異なり就業規則があわない」とかならんとなんともわかりますよね

組織決定をしたり、単独で契約をとという面では、法人格をもっていない我々だけできないことが多々有ります。なにかをする度にせんだいみやぎを説明して、納得して、というような機関決定をするというプロセスを取ると、どうしても機動力をもった動きができません。（れんぷく事務局員①）

ようするに機関決定が遅いと。

そうですね。主観なので全てではないと思いますが。理事会から率直にご意見を聞かせていただきますか？（れんぷく事務局員①）

私は理事会では明確に分離を反対している一人でもあります。風通しの悪さがネックになっているのなら、まずはそこをなんとかすべきだという主張ですね。せんだい・みやぎ NPO センターの指定管理の問題と

かに重点を置くのではなく、本来の業務である中間支援活動に力をいれようと。

理事会の中では「せんだい・みやぎ NPO センターがみやぎ連携復興センターをやっていること自体に批判」がある事も確かです。もともとみやぎ連携復興センターのなりたちは5団体でしたが、事務局は便宜的にせんだい・みやぎ NPO センターになっていました。これは本来きちっとお返しするべきだという意見を持ってる方も多いと感じます。(せんだい・みやぎ理事①)

個人的には共倒れさせるよりは、仕事と人員があるほうを生き残らせようという気もします。(せんだい・みやぎ理事②)

みやぎ連携復興センター誕生の経緯は復興を目指すNPOの連合体。それがたまたませんだい・みやぎ NPO センターのなかの事務局になっておりましたが、この二つの組織を一つの傘においてマネジメントするのは厳しいものがあります。被災地以外も含めてまちづくりの中間支援をやっていくと、活動の中身も仕事の中身もかわってきます。もう少しスピードをもたせるためにも独立した法人格があってもというお話でした。(せんだい・みやぎ代表理事①)

理事の人たちの意見がだいぶ違うという事ですね。仙台は震災が終わったものとして捉えている「仙台どっぷりの人」は市民活動に集中しろと。一方で復興はまだ終わっていないという人もいます。このまま交わらないのであればわけてしまって、意欲がある人が復興に携わったほうがいいと感じます。

これまでのいきさつがきちんと整理されていない。一つの組織の中で別々の組織論の話になってしまうのかわからない。組織論は中で一度決着をつけていただくほうがいいと思います。

そういう意味では組織論としての決着は一旦ついてはいるんですね。理事会では「独立させましょう」ということにはなっています。ただそれをどういうガバナンスでいこうとか、何に注力しようとか、これまでの経緯の整理だとかを含めて、こういった場を持ちたいなと(せんだい・みやぎ理事②)

そこはそこで確認していいんですね。前は「もしもするならばアウトラインを出します」という言い方をされていたので。

独立という言葉自体違和感がある。そもそもせんだい・みやぎ NPO センターの中でみやぎ連携復興センターの位置づけってどうなんでしょう？

大きな傘という話、仮にせんだい・みやぎ NPO センターが目指している中にみやぎ連携復興センターが目指すところが合致すれば別れる必要はないし、逆にみやぎ連携復興センターの目指すものがせんだい・みやぎ NPO センターの目標性に収まらないのであれば、このさいははっきりと分けたほうがいいとは思いますが。もう一つ、みやぎ連携復興センターで働いているスタッフの人達は、せんだい・みやぎ NPO センター職員という「帰属意識」はあるのでしょうか？もしあまりないのなら、無理にせんだい・みやぎ NPO センターではなくみやぎ連携復興センターの一員として覚悟を決めてがんばってもらったほうがスッキリするのかと。ここのスタッフの人達が5年後10年後にそれなりのポジションでがんばってもらうのが大事だと個人的には思いました。

せんだい・みやぎ NPO センターとみやぎ連携復興センター、ちょうど両方経験された吉田さんがみえたので、簡単な自己紹介をお願いします(せんだい・みやぎ理事②)

去年6月までみやぎ連携復興センターにいた吉田裕也

といいます。尚絅学院大学で職員をしています。

2010年にせんだい・みやぎ NPO センターに入職、1年後に被災し、さらに1年後にみやぎ連携復興センターに異動しました。せんだい・みやぎ NPO センターに2年半、みやぎ連携復興センターに2年と、ほぼ半々の間、両方の組織に携わっていたことになります。帰属意識というお話がありましたが、みやぎ連携復興センターにいた時はせんだい・みやぎ NPO センターの職員というよりは「違った目的の元に活動している」のかなという意識を持っていました。なので帰属意識という点では違っていたのかなと思います。

実際に行っている活動としても、せんだい・みやぎ NPO センターの相手が NPO 団体中心だったのに対し、みやぎ連携復興センターの相手は住民や大学など多岐にわたっていた他、活動エリアも宮城県全域を対象としていましたので、やっていて違和感を感じながら活動をしていました。

せんだい・みやぎ NPO センターの一部門としてみやぎ連携復興センターがあったほうが、皆さんが一緒にお仕事をしやすいのか、それとも法人化していたほうがより効果が高まるのか。

今までは内部をどう分ければという議論が進んでいましたが、東北の復興する上で考えた場合、どちらがいいのか？これもまだ別な切り口であるのかなと思っています。(せんだい・みやぎ理事②)

東京で一緒に動くとき、みやぎ連携復興センターはせんだい・みやぎ NPO センターの一部門という説明をしますが、相手はそうは見えていません。「みやぎ連携復興センター」に仕事を出しています。

今3県連携復興センターが集まって何を議論しているかということ、5年間の集中復興期間が終わったあとの次の5年をどうするかという事です。これには決断を迫られるスピードがすごく求められています。そういう意味では決断に時間がかかるというのは「東北の復興についてものすごくハンデ」になると考えています。

外にいる立場からすると、正直我々としては独立しようがしまいがこれまで同様の付き合いをしていくのは変わらないと思います。でも一つ問いかけたいのが「連携復興センターは社会資本」なので「地域の皆様にとって、みやぎ連携復興センターがどうあればいいのか」ということを見ていくのが大事なのかと。組織論的に話をすると狭い議論になってしまうので、そこを見ないといけなと思っています。

みやぎ連携復興センターの目指す連携は「誰と誰がなにを連携してどう復興させる」のか。意見を頂ければと思います。(せんだい・みやぎ理事②)

連携復興センターの連携する先がフェイズによって変わってきたというのが如実にあると思います。

当初は支援団体との連携が大きく意味をなしました。でも今やそれは復興に関わるテーマではなくなってきている。一方で地域づくりやコミュニティ再生の活動が活発化し、連携先が支援団体や基礎自治体、県、復興庁や総務省との連携がかなり重要になってきている。そんな現状からやりにくさがでてきているのだろうなと思います。

そういった意味でスピード感を持つために NPO 法人ではなく一般社団法人として法人化をしたいということですね。(せんだい・みやぎ理事②)

これから組織を見直すことになる、地域から非常に厳しい目で見られることになると思います。これまでせんだい・みやぎの中で市民団体のお手伝いもしていますというある種「いいわけ」が通ったかもしれないが、7月に法人化するとするとそれが効かなくなるということを再認識してもらわないといけません。現場のみなさんと汗水かきながら「覚悟を持って組織の見直し」をしてもらう必要があります。

地域の活動している団体として「みやぎ連携復興センターに何を期待するのか」「一緒になにをしていけるか」という意見があればお願いします（せんだい・みやぎ理事②）

みやぎ連携復興センターさんには、事業にお誘いいただいたりとか、情報提供やマッチングという事でお世話になっておりました。これからも10年くらいのスパンで一緒にできたらなと思っております。

仮に体制が新しくなることでスタッフのみなさんが動きやすくなるということなら、私達も快くも一緒にお仕事できるのかと思います。

被災者が二桁万人いる中で、どこで何をやるんだっけという事にもご意見はないでしょうか（せんだい・みやぎ理事②）

現場と後方支援のバランス、それを組織としてどう取組むかを決めるのが大事な点。それを組織図の中に見えるようにして、早めに現場の人にも見えるようにしていかないと、現場から「何もしていないじゃないか」と言われてしまうと思います。

現場に何回行くかという話ではなく、どこにコミットするかという話だと思います。ある種の専門性が必要なのかもしれません。でもそこは勉強すればできるかという話でもありません。そういう意味でも現場感で学べる人材育成をしていって、スタッフのコミットメントをしっかり考えていかないといけないと思います。

色々と議論がありましたが、3月の検討会と同じ宿題がまだあります。「ビジョン」と「ミッション」を示せと。

今月末にみやぎ連携復興センターのスタッフが「自分達はなにをするのか議論する場所」があると聞いています。今日の議論の内容も踏まえて一旦そこでみやぎ連携復興センターの掲げる「ビジョン」と「ミッシ

ョン」を改めて明確化してもらえればと思います。

今日の議論のなかでご発言できなかった部分や「みやぎ連携復興センターにどこに期待をするか」「一緒になにができるのか」がありましたら、次回の検討会の前である5月10日位までにご意見をいただければと思います。（せんだい・みやぎ理事②）

期待することの前に「なにができるか」についてもう少し説明がほしいです。中間支援組織という話でしたが、事業計画を見ると前面に出て事業をしていくのという風にも見えます。

みやぎ連携復興センターが行う業務は「復興における後方支援業務」です。基本的には現場での直接事業はしません。後方支援業務の中でもベースになるのが連携促進事業。この業務はもともとのみやぎ連携復興センターの根幹です。そこのつなぎ先として人材育成事業やまちづくり事業があると考えています。（せんだい・みやぎ代表理事②）

年間予算が八千万と聞いて驚いています。みやぎ連携復興センターさんは何をやってくれたの？というのが正直な気持ち。八千万をもらうならちゃんと使ってもらえるような組織になってほしいと思います。

次回日程は5月18日、それまでにビジョンとミッションを詰めてご提示できればと思います。（れんぷく事務局員①）

○次回予定

日時：5月18日（月）18:30

場所：仙台市市民活動サポートセンター 6F

以上